評価

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100％以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99％達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79％達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59％達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39％以下の達成

Ⅵ　教師の研修

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント
授業実践力向上のために教職員研修が活発に行われている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	①児童の成長を確認した上で、新たな目標を学校として共通理解しながら設定し実践に取り組んでいくことはすばらしいことである。成果を期待したい。②児童の実態に即した学習指導（コース別学習）の展開はすばらしいことである。どのクラスからも充実した成果を期待する。③教師のアイディアや工夫が児童の学習内容の定着や学力向上につながっているはずである。研修を一層充実させていただきたい。④指定訪問等には、自ら授業者として手を上げたいものである。
	年度			

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

①昨年度までの取組を通して、子どもたちは授業の流れ「有浦スタイル」が身に付き、見通しをもって授業に臨み、自分の考えをもつことができるようになってきた。また、友達を巻き込んだ発言をしたり、少人数での目的に合った話合いをしたりする姿が見られるようになってきたことなど、「集団」としての話合いがスムーズにできるようになってきたと感じる。しかし、一人一人の「個」に注目してみると、全体の場で発言できる児童が限られていることや、友達の発言を自分事と捉えて聞いたり考えたりすることができずにいる児童もいる。そのため今年度は、算数科を中心とした「個」の『伝える力』を高める授業づくりを目指しているところである。

②学び合いの充実を目指した取組として、１学期の初めに学年ごとの「学びのオリエンテーション」を実施した。「有浦スタイル」を確認した他、児童の発達段階に合わせて、今年度力を入れていきたいことをプレゼンテーションを活用しながら分かりやすく伝えた。また、各教室に「反応ワード」を掲示したり、児童一人一人に、発言をつなぐための言葉の例「のべるカード」を配付したりして、児童がいつでも「自分の考えを言葉にして伝える」ということを意識できるようにしている。さらに２学期初めにも、大館市教育研究所の米澤貴子所長をお招きして「学びのオリエンテーション」を実施し、みんなでつながりを大事にしながら成長していくこと、上学年においては算数科コース別学習の意義についてご指導いただいた。本校では４年生以上で習熟度別学習（コース別学習）に取り組んでいるが、１学期末に実施した児童のアンケートからは、それぞれの学年の８割程度の児童が習熟度別学習の方がよいと回答している。

③年度初めに研究・研修部の職員が子どもたちと一緒に提示授業を行い、それを全職員で参観した。これは、今年度新しく赴任した職員にも「有浦スタイル」の流れを共通理解してもらい、児童が自分たちで学び合いをつないでいけるようにするには、教師がどのように関わればよいかということについて研修するためである。また、職員会議や様々な研修会で重点指導事項を確かめたり、授業で工夫しているアイデアを紹介し合ったりしながら、ＰＤＣＡサイクルを生かした研修になるよう努めている。

④これまでに２度の指定訪問があり、授業提示、授業後の研究会での振り返りを行ってきた。研究会はグループごとのワークショップ形式で行うことで、授業者以外の職員一人一人も研修を自分事として捉え、授業改善について活発な協議がなされている。

〈後期の取組〉

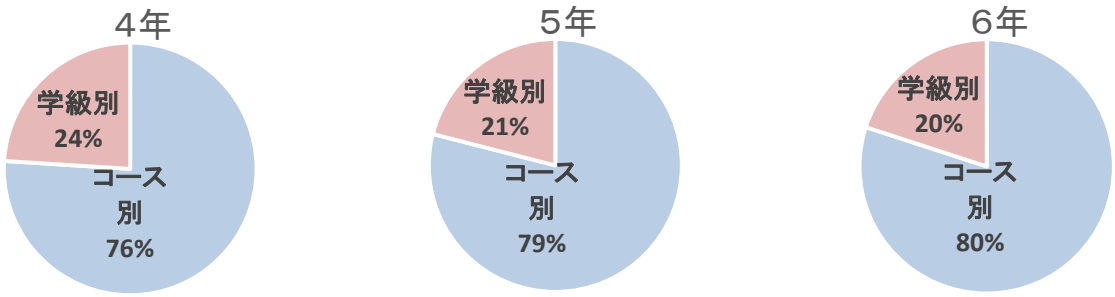
①前期の反省を踏まえ、授業がより児童主体のものになるように授業改善を図っていく。そのため、「ジャンプノベルタイム（発展問題にグループのみんなで協力しながら取り組む時間）」を新たに設定し、取り組んでみることにしている。児童一人一人の『伝える力』を高めるための指導や支援の在り方について、今後も全職員でアイデアを出し合いながら研修に努めていきたい。

【年度（→次年度）】

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 後期
13　指導力の向上	(14)授業改善	子どもの思考の流れを意識した授業の実践	3	
		学び合いの充実を目指した取組		
		学び合いをファシリテートする力の向上		
14　研修の充実と活用	(15)校内及び自己のテーマに即した実践的研修の充実	選択教科の研究と一人一研究授業の実施・授業改善	3	

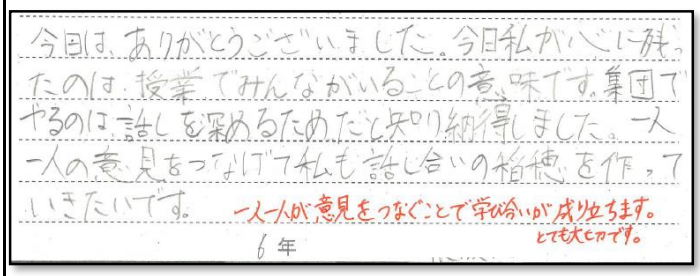
算数科における習熟度別学習アンケートの結果 （1学期末実施：4～6年児童対象）

コース別学習と学級での授業はどちらがよいか



2学期　米澤所長による「学びのオリエンテーション」

「学びのオリエンテーション」児童の振り返りより


今日は、ありがとうございました。今日私が心に残ったのは、授業でみんながいることの意味です。集団でやるのは話しを深めるためだと知り納得しました。一人一人の意見をつなげて私も話し合いの格徳を作っていきたいです。
一人一人が意見をつなぐことで学び合いが成り立ちます。とても大切です。
6年

「学びのオリエンテーション」教師の振り返りより

子どもの意見を引き出すために、教師側にも「粘り」が必要だと実感しました。コース別学習の意義を理解させるための新幹線の例えもとても分かりやすく、子どもたちのイメージを容易にしていました。私自身も、今後の授業を構想していく上での留意点を考えることができました。子どもたちの「予想」から、最後の「まとめ」に至るまで、みんなで力を出し合ってゴールを目指すことができるように、日々の授業をがんばっていきたいです。

私の学年の子どもたちは、意見を出す人が固定化していて、今日も、そういう姿が見られました。学年の課題を学年部で共有して、解決していきたいです。放課後、校長先生と学年部で振り返りを行いました。挙手させるために、単位時間内での工夫もあるけれど、そもそも「手が挙がらない子にも指名する」という手立てを確認しました。その前提として、①考えをもっている子どもである、②発表したら褒めて自信をもたせる、ということを大切にしてきたいです。失敗や間違いが許させる学級づくりも進めていきたいです。

令和6年度　東中学区小中連携部会「授業参観」振り返りより （9月4日実施）

・どの学級も子どもたちの反応がすてきだと思いました。教師であれ、友達であれ、必ず話す人に目や体を向けて聞くという意識が低学年から徹底されており、温かい授業だと思いました。（小学校教職員）

・子どもたち、そして先生方、元気で、笑顔で、信頼関係の良好さを感じました。課題解決に向けて、一人一人が集中して取り組んだり、グループで取り組んだりする姿がよかったです。6年生の4G5T（4グループ5教師）は、有浦規模の学校ならではのダイナミックな取組だと感動しました。（小学校教職員）

・児童の学ぶ意欲の高さや自分の考えを伝えようとする積極性に、ただただ感心しました。「自分の考えを伝えたい」と思えるために、「伝えたときに聞いてもらえる、認めてもらえる、肯定してもらえる」という安心感が児童の中にあるからだと思います。この安心感が生まれるのは教師と児童、児童同士の豊かな関わりと、学習規律の徹底からだと思います。今日の授業でも、返事をやり直させるように促したり、姿勢を正すように指導する場面が見られ、勉強になりました。（中学校教職員）